

論文番号 30

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名(原題/訳)

Alcohol Consumption and Risk of Coronary Heart Disease by Diabetes Status

糖尿病の有無による飲酒と冠動脈疾患との関係

執筆者

Umed A.Ajani et al

掲載誌(番号又は発行年月日)

Circulation.2000; 102:500-505.

キーワード

Alcohol /coronary disease/diabetes mellitus/risk factors

要旨

(背景) 適量飲酒と冠動脈心疾患の逆相関はいくつかの疫学研究で観察されてきた。我々は糖尿病の中でも同様の関連がみられるかどうか明らかにするために前向きコホート研究によって糖尿病の男性、糖尿病でない男性について、適量飲酒と冠動脈心疾患の関連を調査した。

(方法・結果) Physician's Health Study に参加し、ベースライン時に心筋梗塞、脳卒中、がん、肝疾患に罹患していない計 87,938 人のアメリカの臨床医を追跡調査し、冠動脈心疾患による死亡を平均 5.5 年追跡した。480,876 人年の追跡の間に、冠動脈心疾患による 850 人の死亡があった。そのうち 717 人が非糖尿病男性の死亡であり、133 人が糖尿病男性の死亡であった。ベースライン時に糖尿病でなかった男性の中で、Rarely/Never (ほとんど飲まない/非飲酒者の群: 14,890 名)、Monthly (月に 1 杯以上週に 1 杯未満飲酒の群:10,153 名)、Weekly (週に 1 杯以上毎日 1 杯未満飲酒の群: 40,528 名)、Dayly (毎日 1 杯以上飲酒の群:22,367 名)、について、それぞれの群で年齢、アスピリン使用、喫煙、運動、Body Mass Index、狭心症歴、高血圧、高コレステロールを調整した後の相対危険度はそれぞれ、1.00 (基準)、1.02(95%CI 0.77-1.36)、0.82(0.66-1.02)、0.61(0.49-0.78; P for trend<0.0001)であった。ベースライン時に糖尿病であった男性のなかでは、上記の群のそれぞれの相対危険度は、1.00 (基準)、1.11(0.66-1.89)、0.67(0.42-1.07),0.42 (0.23-0.77;P for trend=0.0019)

また、母集団より無作為に抽出した集団について、冠動脈心疾患の発症を追跡した。糖尿病男性について飲酒分類 Rarely/Never (:3,233 名)、Monthly (:2,422 名)、Weekly (:10,670 名)、Dayly (:5,399 名) で、それぞれの群で死亡追跡時同様の調整をした後の相対危険度はそれぞれ、1.00(基準),0.84(0.46-1.54),0.75(0.45-1.26),0.66 (95%CI 0.38-1.16;P for trend0.13) であった。発症に関しての相対危険度は、統計学的有意差を示さなかった。抽出集団のサンプルサイズが小さかったためと思われる。

(結論) これらの結果により、適量飲酒は糖尿病である男性、糖尿病でない男性の両者についての冠動脈心疾患のリスク軽減に関連があるという示唆ができる。